

このたび、ASCO (American Society of Clinical Oncology) 2011 に参加させていただきました。シカゴは、アメリカという雰囲気のある街であり、有名な建造物がならび湖の側の道も美しい綺麗な町でした。その中で開催された、ASCO は世界最大のコンベンションセンターである McCormick Place を貸し切って開催され、アメリカのみならずヨーロッパをはじめアジアを含めた世界各地からの報告が見られました。

会場は、非常に大きく、乳癌血液がんをはじめとする様々なセッションがあり、それぞれ非常に興味深い内容でしたが、やはり普段私が診療にあたっている胃癌、消化管間葉系肉腫 (GIST) を中心にみせていただきました。この分野では日本や韓国などアジアからの報告が多くみられました。胃癌の分野では特に新たな分子標的薬として期待されている Her2 に関する報告が多くなされ、同時に本邦からも SAMIT 試験をはじめとする細やかな臨床試験の報告がされ勉強させていただきました。

また、楽しみにしておりました Plenary session では、その会場はスクリーンが数多くなれば、演者の姿は遥かかなたといった大変広大なものでした。その中で、GIST に対するイマチニブによるアジュバント治療の全生存率への寄与についての SSGXVIII の結果が報告されました。これまで、全生存への寄与は不明であったイマチニブのアジュバント治療の有効性が報告された画期的な報告でした。GIST は、希少疾患であるにも関わらず、GIST に対するグリベック治療の成功は、固形腫瘍に対する分子標的治療の成功の象徴ともなっている注目度の高い疾患です。その分野で、アジュバントでの効果が認められたことが、その後に関わるのではといった期待からのものであると考えられました。

今回初めてのASCOへの参加でしたが、私にとってその内容のみならず、このようにして治療が進歩していくのだということをも身を持って感じることができました。さらに、日々行っている治療に役立てていきたいと感じました。

最後に、このような機会を与えていただきました関係の皆様には深く感謝を申し上げます。